

科目名 (英)	医学概論 General Medical Theory	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	折田 誠子
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	2			曜日/時間	月曜日 6, 7時限
講師紹介	講師は大学病院から個人クリニックまで看護師として豊富な実務経験を有する。また看護大学、看護専門学校、言語聴覚士養成校で機能形態学、疾患論、公衆衛生学 リハビリテーション医学、国家試験対策講義の実績を有する。社会福祉士に必要なと思われる公衆衛生 形態機能学 リハビリテーション医学 疾患論 予防医学について実践に役立つように学生自身が考えられるような授業を行う。						
目的	社会福祉の実践に必要な保健・医療の基本的な知識、主な疾患の概念を理解する。						
科目概要	保健・医療の対象を理解するためにライフステージにおける課題を理解する。健康と疾患を理解する上に必要な身体の構造と機能を理解したうえで疾患の予防、治療、予後について学びリハビリテーションの範囲、公衆衛生について学ぶ。						
到達目標	1. 社会福祉士として必要な保健・医療の対象について理解する。 2. 身体の構造と機能を理解する。 3. 疾病と障害の成り立ちを理解し、予防から治療、リハビリテーションについて理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	医学概論(中央法規出版)			事前事後 学習と その内容	専門用語が多いので、授業中または、その都度復習して覚えるように心掛けてください。小テスト、練習問題、配布資料中心に学習してください。		
参考図書	国民衛生の動向						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ライフステージにおける心身の変化	講義	自己紹介 学習の仕方などガイダンス ライフステージにおける心身の特徴 心身の変化
2	健康と疾患の概念	講義	ライフステージ別の健康問題 健康の定義 疾患の概念
3	国際生活機能分類(ICF)	講義	障がいの概念 国際生活分類について 疾患と障害の成り立ち
4	身体の構造と機能①	講義	人体の全体像 骨格 筋系 循環器
5	身体の構造と機能②	講義	呼吸器系 消化器系
6	身体の構造と機能③	講義	脳神経 感覚器系 内分泌系
7	リハビリテーションの概要	講義	リハビリテーションの定義 目的 対象 前半の復習
8	中間テスト		筆記試験 1回から7回までの内容
9	疾病と障害の予防・治療・予後①	講義	中間試験の解説 感染症 生活習慣病
10	疾病と障害の予防・治療・予後②	講義	神経難病 認知症 脳血管疾患
11	疾病と障害の予防・治療・予後③	講義	心疾患 内分泌 呼吸器疾患
12	疾病と障害の予防・治療・予後④	講義	腎 血液 アレルギー疾患
13	疾病と障害の予防・治療・予後⑤	講義	精神疾患 高齢者疾患
14	公衆衛生	講義	公衆衛生の概要 保健対策
15	定期試験		筆記試験 9回から14回までの内容

科目名 (英)	社会学と社会システム Sociology and Social Systems	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	牧野 修也
		授業形態	講義		無	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	2			曜日/時間	火曜日 6,7限
講師紹介	博士(社会学)。専門社会調査士。大学・短期大学・専門学校で兼任講師として、社会学および社会調査関連の講義と社会調査実習を担当する。学会誌編集委員を務めている。社会活動としては、社会教育委員を2期務めたことがある。単著、共著あり。 主たる所属学会：日本社会学会・関東社会学会・地域社会学会・日本村落研究学会など。						
目的	社会学の考え方やその対象、社会問題の捉え方について学び、社会福祉専門職に関わる現代社会における社会問題の構造・対処法を幅広く考察する。 ソーシャルワーク実践の基礎として、社会をシステムとして捉え、ソーシャルワークを単なる個人の「想いの代償行為」や「使命感の具現化」ではなく、科学的アプローチによる知見に基づく実践の基礎知識として、社会学の知識と認識を獲得する。						
科目概要	社会学の基礎理論の概説と現代社会の問題に対する社会学的視点による分析のガイダンス						
到達目標	①社会学理論や社会学の思考を用いて、現代社会における社会問題の構造と要因を分析することができる。 ②社会福祉士としての実践を行う際に必要な認識と視点を、社会学的思考の習得を通じて得ることができる。 ③社会学的思考を通じて、将来的な予測を、科学的に行うことができる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	杉座・石川・菊池編2021『社会学と社会システム』弘文堂			事前事後 学習と その内容	①講義時に用いた資料や説明で用いたキーワードを手がかりに、テキストの該当箇所を読み、ノートをとめる。 ②講義で扱ったテーマに関連する問題を国家試験過去問から探して、すべての選択肢の問題に解説を付けて、正答を見つける。 ③講義前に、授業内容に該当するテキスト箇所の要点のを箇条書き		
参考図書	必要に応じて、講義時に提示します。配付資料。						
特記事項	講義時に、ワークブック類を見ることは学習効果を下げるので禁止します。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	社会とは何か	講義	①社会概念の成り立ち ②社会と世間の違い ③社会と人権の関係
2	社会学の歴史	講義	①社会学の成り立ち ②社会学の発展 ③現代への社会学の流れ
3	自我形成とアイデンティティ形成	講義	①社会環境と自我形成 ②アイデンティティ ③現代的アイデンティティの特徴
4	社会的役割	講義	①役割の定義 ②役割の種類 ③役割の社会的意義
5	社会的排除	講義	①社会的排除のメカニズム ②現代的排除の特徴 ③社会的排除と管理社会
6	集団と組織	講義	①集団の定義 ②集団の種類 ③組織の定義
7	官僚制	講義	①組織と官僚制原理 ②マクドナルド化 ③感情労働
8	社会的行為 【中間テスト】	講義	①社会的行為と社会システム ②社会的ジレンマ
9	社会的逸脱	講義	①社会的逸脱とは何か ②社会システムと社会的逸脱 ③社会構築主義
10	家族の伝統性	講義	①家族定義と種類 ②家族機能 ③核家族と核家族化
11	家族の現代性	講義	①近代家族 ②家族変動の現代的状況 ③家族変動の方向性
12	社会的不平等	講義	①社会的不平等 ②貧困問題 ③経済資本・文化資本・社会関係資本
13	地域社会の伝統性	講義	①農村社会と都市社会の定義 ②シカゴ学派 ③過密と過疎化、都市化
14	地域社会の現代性	講義	①地域社会の「限界」化 ②郊外化、ドーナツ化現象、インナーシティ現象、サバーバニズム、ジェントリフィケーション ③グローバルゼーション
15	期末試験		期末試験と解答・解説

科目名 (英)	社会福祉調査の基礎 Basics of Social Welfare Research	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	牧野 修也
		授業形態	講義		無	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	2			曜日/時間	火曜 6,7限
講師紹介	博士(社会学)。専門社会調査士。大学・短期大学・専門学校で兼任講師として、社会学および社会調査関連の講義と社会調査実習を担当する。学会誌編集委員を務めている。社会活動としては、社会教育委員を2期務めたことがある。単著、共著あり。 主たる所属学会：日本社会学会・関東社会学会・地域社会学会・日本村落研究学会など。						
目的	社会調査の基礎と原理と、社会福祉実践に求められる社会調査の方法・手法とデータ分析法を具体的に学ぶ。 ソーシャルワーク実践の基礎として、社会をシステムとして捉え、ソーシャルワークを単なる個人の「想いの代償行為」や「使命感の具現化」ではなく、科学的アプローチによる知見に基づく実践の基礎知識として、社会調査の知識および技法と認識を獲得する。						
科目概要	社会調査の認識論と技法を解説することを通して、社会福祉調査の社会的意味と意義を把握していく。						
到達目標	①社会福祉調査が単なる技術論や方法論ではなく、社会学理論に基づいて組み立てられた理論枠組みに基づいて行われていることを理解する。 ②社会調査の意識と目的及び方法の概要について理解する。 ③統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ④量的調査の方法及び質的調査の方法について理解し、自身で企画・実施できる。。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	宮本・梶原・山村編2023『社会福祉調査の基礎』弘文堂			事前事後 学習と その内容	①講義時に用いた資料や説明で用いたキーワードを手がかりに、テキストの該当箇所を読み、ノートをとめる。 ②講義で扱ったテーマに関連する問題を国家試験過去問から探して、すべての選択肢の問題に解説を付けて、正答を見つける。 ③講義前に、授業内容に該当するテキスト箇所の要点のを箇条書き		
参考図書	必要に応じて、講義時に提示します。配付資料。						
特記事項	講義時に、ワークブック類を見ることは学習効果を下げるので禁止します。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	社会福祉調査とは何か	講義	①社会調査の意義 ②社会調査の歴史 ③社会調査とソーシャルワーク
2	社会調査の種類	講義	①社会調査の種類 ②ソーシャルワーク実践に対する社会調査の役割 ③政策と社会調査
3	社会調査を巡る制度と倫理	講義	①統計法 ②社会調査の倫理 ③社会調査の精密さ
4	量的調査の種類	講義	①量的調査の種類 ②量的調査で分かること／分からないこと ③量的調査の基礎概念
5	量的調査の方法	講義	①社会調査の方法 ②量的調査の対象と選択 ③質問紙の作成
6	量的調査の集計	講義	①集計の種類と方法 ②統計的検定 ③変量解析
7	社会調査の認識論	講義	①社会調査の対象への認識 ②社会調査の方法への認識 ③無回答についての理解
8	量的調査の実践的まとめ 【中間テスト】	講義	①量的調査の可能性と限界
9	質的調査の種類と方法	講義	①質的調査とは何か？ ②量的調査で分かること／分からないこと ③質的調査の種類
10	観察法	講義	①観察法の種類 ②観察の方法
11	面接とインタビュー	講義	①面接とインタビューの違い ②インタビューのアクティブ性
12	フィールドノーツとドキュメント分析	講義	①フィールドノーツとは何か？ ②フィールドノーツの方法 ③ドキュメント分析
13	エスノグラフィー	講義	①エスノグラフィーとは何か？ ②アクション・リサーチ
14	グラウンデッド・セオリー	講義	①グラウンデッド・セオリーのめざすこと ②KJ法との違い ③グラウンデッド・セオリーの方法
15	定期試験		定期試験と解答・解説

科目名 (英)	ソーシャルワークの基盤と専門職(共通) Social Work Basics and Specialization	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	各務 勝博
		授業形態	演習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	2			曜日/時間	水曜日 6限
講師紹介	社会福祉士、介護支援専門員、キャリアコンサルタントの資格を取得。障害者福祉・高齢者福祉分野において、施設・在宅・就労移行の支援員、相談員、管理者として30年以上の豊富な実務経験を有する。同時に社会福祉法人や専門職団体での現任研修や資格取得対策講座を担当する。2013年より大学・専門学校において社会福祉士・精神保健福祉士の他、歯科衛生士や言語聴覚士などの資格取得科目、演習・実習科目を担当。国家試験に合格することを前提としながらも、「分かりやすい授業」「身につく授業」を心がけている。						
目的	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、専門性、役割についての理解、ソーシャルワークの概念やその基盤となる考え方、専門職倫理など、ソーシャルワーク実践に必要な要素についてテキストとレジュメ、配布資料を活用し、国家試験の水準を基本として学ぶ。						
科目概要	ソーシャルワーカーにとって必要となる援助技術についての基礎的な知識を身に付け、価値や倫理などについて考察する。ソーシャルワークの理念、ソーシャルワーカーの役割や業務の範囲について理解し、適切に行動するための知識を身につける。						
到達目標	・社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ・ソーシャルワークの概念とその基盤となる考え方、形成過程について理解する。 ・ソーシャルワークの価値と倫理について理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	ソーシャルワークの基盤と専門職(中央法規出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、テキストの該当箇所を読んでおく。 事後学習として、授業の最後実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士	演習	ソーシャルワーク専門職の国家資格、地域共生社会の実現に向けたソーシャルワーク専門職に対する期待
2	社会福祉士及び介護福祉士法/精神保健福祉士法	演習	福祉士制度創設の経緯と背景、社会福祉士・精神保健福祉士の定義と義務、制度見直しの概要
3	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性	演習	課題の発見と資源の活用、他機関／多職種連携、介入、終結と支援の波及効果
4	社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー	演習	多様性と相違に対応する、人権と正義、個人・家族・グループ・組織・コミュニティとのかかわり
5	ソーシャルワークの概念	演習	ソーシャルワークの定義、ソーシャルワークの構成要素
6	ソーシャルワークの基盤となる考え方①	演習	ソーシャルワークの原理
7	ソーシャルワークの基盤となる考え方②	演習	、ソーシャルワークの理念
8	中間まとめと中間テスト		
9	ソーシャルワークの形成過程①	演習	ソーシャルワークの源流と基礎確立期
10	ソーシャルワークの形成過程②	演習	ソーシャルワークの発展期
11	ソーシャルワークの形成過程③	演習	ソーシャルワークの展開期と統合化
12	ソーシャルワークの形成過程④	演習	日本におけるソーシャルワークの形成過程
13	ソーシャルワーク倫理①	演習	専門職倫理の概念、倫理綱領
14	ソーシャルワーク倫理②	演習	倫理的ジレンマ
15	まとめと定期試験		

科目名 (英)	ソーシャルワークの理論と方法 Social Work Theory and Methods	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 修
		授業形態	演習		有		
		時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	4			曜日/時間	木曜日 6,7限
講師紹介	講師は介護老人福祉施設の生活相談員および指定特定相談支援事業所の相談支援専門員として、高齢者・ご家族への生活相談支援、地域の障害者の計画相談支援に従事し豊富な実務経験を有する。国家試験対策と並行して、福祉に関連する根本的な課題・問題群を考察する視点・思考を養うことを目指し、学生とともに考え、学ぶ授業展開を目指す。						
目的	ソーシャルワーク実践に不可欠な理論とその実践方法を理解し、支援対象と課題の捉え方および対応法の基礎を習得する。						
科目概要	ソーシャルワークの基礎理論とその実践方法を学ぶ。社会福祉士養成カリキュラム内での位置づけとしてソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習との関連が強く、ソーシャルワーク実践の基盤となる知識・技術の習得と、実践の際の拠り所とする考え方(価値観)を養う。						
到達目標	ソーシャルワーク実践に際しての最重要科目のひとつであることに鑑み、国家試験対策として各種試験において8割以上の正答力を養う。今日の福祉的課題が内包する構造的問題について、システム理論をはじめとするソーシャルワーク理論を援用した「人と環境の交互作用」の観点から考察を深めることができる。また演習・実習等の学習成果と併せて相談支援実践の基礎を習得することができる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	『ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規出版			事前事後 学習と その内容	事前事後学習として、読み、考え、その内容をアウトプットすることを推奨する。授業についてもこれをもとに対話的に行うことを旨とする。各回とも授業前にテキスト該当箇所を通読しておくこと。		
参考図書	小坂井敏晶『社会心理学講義』(筑摩選書)						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	①科目オリエンテーション ②第1章: 人と環境の交互作用①	演習	①科目特性と学習の進め方、授業の進め方について知る。 ②システム理論、生態学理論などの概要と意義について理解する
3・4	③第1章: 人と環境の交互作用② ④第1章: 人と環境の交互作用③	演習	③システム理論、生態学理論などを援用した人と環境の捉え方について理解する ④システム理論、生態学理論などを援用した人と環境の捉え方について考察する
5・6	⑤第2章～第6章: ソーシャルワークの過程 ⑥第2章: インテーク①	演習	⑤ケースの発見から支援終結までの過程を理解する ⑥インテークの意義と目的について理解する
7・8	⑦第2章: インテーク② ⑧第2章: インテーク③/中間テスト	演習	⑦主訴とニーズの相違と把握の仕方についての考え方を理解する ⑧インテーク実践の実際について理解する/中間テスト
9・10	⑨第3章: アセスメント① ⑩第3章: アセスメント②	演習	⑨アセスメントの意義と目的 ⑩アセスメント実践の実際について理解する
11・12	⑪第4章: プランニング① ⑫第4章: プランニング②	演習	⑪プランニングの意義と目的 ⑫プランニング実践の実際について理解する
13・14	⑬第5章: 支援の実施とモニタリング① ⑭第5章: 支援の実施とモニタリング②	演習	⑬インターベンションとモニタリングの意義と目的 ⑭インターベンションとモニタリング実践の実際について理解する
15・16	⑮第6章: 支援の終結と評価、アフターケア ⑯定期試験	演習	⑮支援の終結と評価、アフターケアの意義、目的と実際について理解する ⑯定期試験
17・18	⑰第7章: 実践モデルとアプローチ① ⑱第7章: 実践モデルとアプローチ②	演習	⑰モデルとアプローチ、代表的モデルについて理解する ⑱さまざまなアプローチ①
19・20	⑲第7章: 実践モデルとアプローチ③ ⑳第7章: 実践モデルとアプローチ④	演習	⑲さまざまなアプローチ② ⑳さまざまなアプローチ③
21・22	㉑第8章: ソーシャルワークの面接① ㉒第8章: ソーシャルワークの面接②	演習	㉑ソーシャルワーク面接の意義と目的について理解する ㉒ソーシャルワーク面接の実際について理解する
23・24	㉓第9章: ソーシャルワークの記録① ㉔第9章: ソーシャルワークの記録②(中間テスト)	演習	㉓記録の意義と目的について理解する ㉔さまざまな記録の種類とその技法について理解する
25・26	㉕第10章: ケアマネジメント ㉖第11章: グループを活用した支援	演習	㉕ケアマネジメントの意義と目的について理解する ㉖グループを活用した支援の方法と実践について理解する
27・28	㉗第12章: コミュニティワーク ㉘第13章～15章: 組織、ソーシャルアクション、スーパーヴィジョン①	演習	㉗コミュニティワークの意義と目的について理解する ㉘ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパーヴィジョンの概要について理解する。
29・30	㉙第13章～15章: 組織、ソーシャルアクション、スーパーヴィジョン② ㉚総まとめ～定期試験	演習	㉙ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパーヴィジョンの各実践と課題について理解する ㉚定期試験(全範囲)

科目名 (英)	地域福祉と包括的支援体制 Community-based Welfare and Comprehensive Support System	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	各務 勝博
		授業形態	講義		有		
		時間数	60	授業回数	30	開講区分	
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	4			曜日/時間	水曜 7限
講師紹介	社会福祉士、介護支援専門員、キャリアコンサルタントの資格を取得。障害者福祉・高齢者福祉分野において、施設・在宅・就労移行の支援員、相談員、管理者として30年以上の豊富な実務経験を有する。同時に社会福祉法人や専門職団体での現任研修や資格取得対策講座を担当する。2013年より大学・専門学校において社会福祉士・精神保健福祉士の他、歯科衛生士や言語聴覚士などの資格取得科目、演習・実習科目を担当。国家試験に合格することを前提としながらも、「分かりやすい授業」「身につく授業」を心がけている。						
目的	地域福祉の主体と対象、住民の主体形成について理解する。併せて、地域福祉の推進にとって重要である福祉行財政、福祉計画および災害時の支援について、テキストとレジュメ、配布資料を活用し、国家試験の水準を基本として学ぶ。						
科目概要	授業では、地域福祉の主体と対象、地域福祉における主体と対象、住民の主体形成、福祉行財政、そして地域福祉計画を初めとした福祉計画の意義や目的、そして展開について学ぶ。						
到達目標	・地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の考え方を理解する。 ・地域福祉推進のための、福祉行財政の実施体制と役割、福祉計画について理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他（ ）						
教科書	地域福祉と包括的支援体制（中央法規出版）			事前事後 学習と その内容	事前学習として、テキストの該当箇所を読んでおく。事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	地域福祉の概念と理論	講義	地域福祉の概念・理論
2	地域社会の変化	講義	「世帯」の変化、過疎問題、見えない貧困、地域社会における異質性の拡大
3	多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ	講義	地域社会と地域生活課題をシステムとして考える/多様化複雑化した地域生活課題
4	地域福祉と社会的孤立	講義	地域福祉とは/社会的孤立
5	地域包括ケアシステム	講義	地域包括ケアシステムの考え方/地域包括ケアシステムの経過と展開
6	生活困窮者の自立支援制度	講義	生活困窮者自立支援制度の目的と理念/生活困窮者自立支援制度の概要と支援過程
7	まとめと中間テスト		
8	包括的支援体制	講義	包括的支援体制に向けての展開、法改正の内容、包括的支援体制の具体的展開方法
9	地域共生社会の構築とそれに向けた各種施策	講義	地域共生社会の実現に向けて/地域共生社会の実現に向けた各種施策
10	地域福祉ガバナンス	講義	地域福祉ガバナンスとは/複雑化する課題と多機関協働
11	多機関協働を促進する仕組み	講義	総合相談/包括的な支援体制と共同の場
12	多職種連携	講義	保険・医療・福祉にかかわる多職種連携/多職種連携における個人情報保護
13	福祉以外の分野との協働関係の実際	講義	地域資源と社会資源、福祉以外の分野との協働実践
14	地域福祉の概念と理論	講義	地域福祉の概念と理論化の変遷/地域福祉をめぐる新たな展開と理論的な視点
15	まとめと定期試験		

科目名 (英)	地域福祉と包括的支援体制 Community-based Welfare and Comprehensive Support System	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	各務 勝博
		授業形態	講義		有		
		時間数	60	授業回数	30	開講区分	
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	4			曜日/時間	水曜 7限
講師紹介	社会福祉士、介護支援専門員、キャリアコンサルタントの資格を取得。障害者福祉・高齢者福祉分野において、施設・在宅・就労移行の支援員、相談員、管理者として30年以上の豊富な実務経験を有する。同時に社会福祉法人や専門職団体での現任研修や資格取得対策講座を担当する。2013年より大学・専門学校において社会福祉士・精神保健福祉士の他、歯科衛生士や言語聴覚士などの資格取得科目、演習・実習科目を担当。国家試験に合格することを前提としながらも、「分かりやすい授業」「身につく授業」を心がけている。						
目的	地域福祉の主体と対象、住民の主体形成について理解する。併せて、地域福祉の推進にとって重要である福祉行財政、福祉計画および災害時の支援について、テキストとレジュメ、配布資料を活用し、国家試験の水準を基本として学ぶ。						
科目概要	授業では、地域福祉の主体と対象、地域福祉における主体と対象、住民の主体形成、福祉行財政、そして地域福祉計画を初めとした福祉計画の意義や目的、そして展開について学ぶ。						
到達目標	・地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の考え方を理解する。 ・地域福祉推進のための、福祉行財政の実施体制と役割、福祉計画について理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他（ ）						
教科書	地域福祉と包括的支援体制（中央法規出版）			事前事後 学習と その内容	事前学習として、テキストの該当箇所を読んでおく。事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
16	地域福祉の歴史①	講義	欧米における地域福祉の歴史
17	地域福祉の歴史②	講義	日本における地域福祉の歴史
18	地域福祉の動向と推進主体	講義	地域共生社会の構築/地域福祉の推進主体
19	地域福祉の主体と福祉教育	講義	地域福祉の主体/福祉教育
20	地域を基盤としたソーシャルワーク	講義	地域を基盤としたソーシャルワーク、コミュニティソーシャルワーク/地域共生社会の実現
21	住民の主体形成に向けたアプローチ	講義	住民の主体形成の意義./住民の主体形成の方法
22	災害時における総合的かつ包括的な支援体制	講義	非常時や災害時における法制度、非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援
23	まとめと中間テスト		
24	福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開	講義	福祉計画の定義/福祉計画の歴史
25	市町村地域福祉計画と都道府県地域福祉支援計画	講義	市町村地域福祉計画/都道府県地域福祉支援計画
26	分野ごとの福祉計画	講義	老人福祉計画と介護保険事業計画/障害者計画と障害福祉計画/次世代育成支援計画と子ども・子育て支援事業計画
27	福祉計画の過程	講義	福祉計画の主体、福祉計画の過程と方法/ニーズ把握の方法・技術/福祉計画の評価
28	福祉行政システム	講義	国・都道府県・市町村の役割と関係/福祉行政の組織と専門職
29	福祉財政システム	講義	国と地方の財源、保険料財源と民間の財源
30	まとめと定期試験		

科目名 (英)	高齢者福祉 Welfare for the Elderly	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	土屋 敦
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	2			曜日/時間	月曜日 6,7限
講師紹介	介護福祉士。高齢者福祉分野にて、介護職員、生活相談員および特別養護老人ホームの施設長として豊富な実務経験を有する。						
目的	高齢者を取り巻く社会環境を把握し、高齢者福祉の発展過程及び法制度と支援の仕組みを理解し、社会福祉士としての適切な支援の在り方を学ぶ。						
科目概要	高齢者分野におけるソーシャルワーク実践の為の知識の習得						
到達目標	高齢社会の基本的知識を理解し、高齢者の取り巻く環境と実態及び高齢者の特性を理解する。地域共生社会の実現において力を発揮できるようなソーシャルワーカーとして、力を発揮できるよう社会においての役割を理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他（ ）						
教科書	高齢者福祉（中央法規出版）			事前事後 学習と その内容			
参考図書							
特記事項	授業開始時間には身だしなみを整え着席していること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	高齢者と少子高齢社会	講義	・高齢者の定義と特性 高齢者の社会的・身体的・精神的理解
2	高齢者と少子高齢社会	講義	・少子高齢社会 高齢化率と今後の見通し 日本の高齢化の特徴と課題
3	高齢者の生活実態と社会環境	講義	・高齢者の生活実態 就業・要介護・社会・生活環境の状況 ・高齢者を取り巻く社会環境 高齢世帯、家族介護の多様化と近年の問題
4	高齢者福祉の歴史と理念	講義	・高齢者観の変遷と高齢者福祉の理念及び発展過程 社会における高齢者観の変遷 老人福祉法の誕生から地域包括ケアシステム構築までの発展
5	介護保険制度	講義	・介護保険制度の概要 制度の仕組み 保険料と要介護認定の仕組みとプロセス 介護保険事業計画について
6	介護保険制度	講義	・地域支援事業と介護保険サービスの体系 地域支援事業の内容及び各種サービスについて
7	中間テスト		1～7までの範囲で出題
8	中間までのまとめ 介護保険制度まとめ	講義	・制度の概要と各種サービスのまとめと地域支援事業について
9	高齢者に対する関連諸制度	講義	・老人福祉法について 成立の背景と目的理念、老人福祉法の構成と内容
10	高齢者に対する関連諸制度	講義	・高齢者医療確保法と虐待防止法 後期高齢者医療制度と高齢者虐待の未然防止について
11	高齢者に対する関連諸制度	講義	・高齢者への他制度 バリアフリー法、高齢者住まい法、高齢者雇用安定法、育児介護休業法、市町村独自の支援
12	専門職としての役割	講義	・関係機関の役割と専門職の役割 行政機関の役割と地域包括支援センターの役割 フォーマルな専門職の役割
13	高齢者と家族等への支援	講義	・ソーシャルワーカーの役割 アセスメント及びケアマネジメントについて 家族及び状況に合わせたソーシャルワーク
14	高齢者と家族等への支援	講義	・支援の実際 事例から見る実際の支援について
15	定期試験		知識テスト(講義内容全範囲から出題)

科目名 (英)	ソーシャルワーク演習 Practice for Social Work	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 修
		授業形態	演習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	2			曜日/時間	金曜日 6,7限
講師紹介	講師は介護老人福祉施設の生活相談員および指定特定相談支援事業所の相談支援専門員として、高齢者・ご家族への生活相談支援、地域の障害者の計画相談支援に従事し豊富な実務経験を有する。実践力の習得と並行して、福祉に関連する根本的な課題・問題群を考察する視点・思考を養うことを目指し、学生とともに考え、学ぶ授業展開を目指す。						
目的	ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解するとともに、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション能力、ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に理解する。						
科目概要	ソーシャルワークの基盤となる知識・技術・価値観を演習を通して実践的に学ぶ。						
到達目標	本科目に続く『ソーシャルワーク演習(専門)』での、個別のかつ複雑な課題を対象としたソーシャルワーク演習を前提として、各分野での実践に共通する基礎的知識・技術および価値観の実践的習得を目指す。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	『ソーシャルワーク演習』中央法規出版			事前事後 学習と その内容	中間テストおよび定期テストは、記述試験または実技試験にて行う。		
参考図書	『社会心理学講義』小坂井敏晶ほか						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	科目オリエンテーション	演習	演習の意義と目的 授業計画と進め方
2	価値と倫理①	演習	ソーシャルワークの価値と倫理・グローバル定義・各種団体の倫理綱領など
3	価値と倫理②	演習	倫理的ジレンマについての考察
4	価値と倫理③	演習	自己の価値観と倫理観について知る
5	自己理解と他者理解①	演習	自己理解と他者理解のソーシャルワークにおける意義
6	自己理解と他者理解②	演習	自己理解の方法とこころみ
7	自己理解と他者理解③	演習	価値の多様化と他者理解のこころみ
8	中間テストと振り返り	演習	中間テストと前半の振り返り
9	コミュニケーションと面接①	演習	ソーシャルワークのコミュニケーションと現代的な対話主義
10	コミュニケーションと面接②	演習	面接の構造と実践①
11	コミュニケーションと面接③	演習	面接の構造と実践②
12	ソーシャルワークの展開①	演習	インテーク・アセスメントの実践
13	ソーシャルワークの展開②	演習	アセスメント・プランニングの実践
14	ソーシャルワークの展開③	演習	モニタリングから支援終結までの実践
15	定期試験		定期試験と総振り返り

科目名 (英)	心理学と心理的支援 Psychology and Psycological Support	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	阿相 周一
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	2			曜日/時間	火曜日 6,7限
講師紹介	担当教員は、臨床心理士・公認心理師として医療(特に依存症／アディクションの再発予防、再犯防止プログラム)や教育等の分野で豊富な実務経験を有する。授業では、臨床の知見も取り入れ、将来の支援活動や日々のセルフケアに役立つような実践的な知識も提供する。また、グループワークを取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしというように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。						
目的	生物学的・心理的・社会的な側面から“心”の働きおよび“心”の健康や不適応、心理学的支援を理解し、説明できることを目指す。						
科目概要	心理学と心理学的支援を概観し、基礎的・包括的な理解を目指す。						
到達目標	国家試験対策として8割以上の正答力を養う。 心理学と心理学的支援の理解を深め、セルフケアおよび対人支援の実践基盤となる知識を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	心理学と心理的支援(中央法規出版)			事前事後 学習と その内容	本科目に関する図書は、使用テキスト以外にも数多くあります。授業で紹介する参考図書などを、ぜひ読み比べてみてください。		
参考図書	各授業で、適宜、案内します						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	科目オリエンテーション 心理学の歴史	講義	心理学の歴史から心理学という学問を概説
2	人の心の基本的な仕組みと機能①	講義	感情・動機付け・欲求
3	人の心の基本的な仕組みと機能②	講義	心の生物学的基盤(脳・神経)
4	人の心の基本的な仕組みと機能③	講義	感覚・知覚・認知
5	人の心の基本的な仕組みと機能④	講義	学習と行動
6	人の心の基本的な仕組みと機能⑤	講義	記憶・知能
7	人の心の基本的な仕組みと機能⑥	講義	パーソナリティ、社会の中での心理
8	中間テスト	講義	前半総まとめ 中間テスト
9	人の心の基本的な仕組みと機能⑦	講義	人の心の発達過程
10	日常生活と心の健康①	講義	心の不適応
11	日常生活と心の健康②	講義	健康生成論、セルフケア
12	アセスメントと支援の基本①	講義	アセスメント、心理検査
13	アセスメントと支援の基本②	講義	各種心理療法、支援法
14	アセスメントと支援の基本③	講義	各種心理療法、支援法
15	定期テスト		総まとめ 定期テスト

科目名	社会福祉の原理と政策 Social Welfare Principles and Policies	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	各務 勝博
(英)		授業形態	講義		有	開講区分	後期
学科・コース		時間数	60	授業回数	30		
	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	4				
講師紹介	社会福祉士、介護支援専門員、キャリアコンサルタントの資格を取得。障害者福祉・高齢者福祉分野において、施設・在宅・就労移行の支援員、相談員、管理者として30年以上の豊富な実務経験を有する。同時に社会福祉法人や専門職団体での現任研修や資格取得対策講座を担当する。2013年より大学・専門学校において社会福祉士・精神保健福祉士の他、歯科衛生士や言語聴覚士などの資格取得科目、演習・実習科目を担当。国家試験に合格することを前提としながらも、「分かりやすい授業」「身につく授業」を心がけている。						
目的	この授業ではまず、社会福祉の原理と福祉政策をめぐる論点を理解することが重要である。その上で、社会構造や社会問題を理解し、取り組まれている福祉政策の概要、そのもととなる理論について、テキストとレジュメ、配布資料を活用し、国家試験の水準を基本として学ぶ。						
科目概要	社会福祉の歴史的展開について学び、現代の社会福祉の原理と政策についての概要を理解していく。また、その課題についても考察していく。						
到達目標	・現代社会における社会構造や社会問題、福祉政策について理解する。 政策に関わる原理や思想、歴史について理解する。 医療・教育・住宅・労働などの関連政策との関係について理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他（ ）						
教科書	社会福祉の原理と政策（中央法規出版）			事前事後 学習と その内容	事前学習として、テキストの該当箇所を読んでおく。 事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	社会福祉の原理 社会福祉の歴史①	講義	社会福祉の原理とは何か、社会福祉の原理はなぜ必要か、歴史を学ぶ意義
3・4	社会福祉の歴史②	講義	欧米の社会福祉の歴史、日本の社会福祉の歴史
5・6	社会福祉の思想・哲学・理論	講義	社会福祉の思想と哲学、社会福祉の定義、日本と海外の社会福祉・福祉政策の理論
7・8	社会福祉の論点とニーズ	講義	多元的供給主体論、普遍主義と選別主義、社会福祉の対象としてのニーズ
9・10	社会問題と社会構造	講義	現代における社会問題、社会問題の歴史的背景
11・12	福祉政策の基本的な視点	講義	福祉政策とは何か、自由と平等、自由と依存、インターセクショナルリティ(差別の交差性)の視点
13・14	福祉政策におけるニーズと資源	講義	ニーズ(必要)とは何か、ニーズ(必要)とデマンド(需要)、行政需要と行政ニーズ、ニーズの把握、ニーズの種類、資源とは何か、現金給付と現物給付、ベーシックインカム
15・16	中間まとめ/中間テスト	講義	
17・18	福祉政策の構成要素と過程	講義	福祉政策の構成要素と役割・機能、資源配分、福祉サービスの提供方式、福祉政策の諸過程と政策決定、福祉政策の方法・手段、福祉政策の評価、福祉計画、行財政
19・20	福祉政策の動向と課題	講義	社会福祉基礎構造改革、社会福祉法、一億総活躍社会、地域共生社会、包括的支援、多文化共生、新たな手法を活用した社会的課題へのアプローチ
21・22	福祉政策と関連施策①	講義	保健医療政策、教育政策、住宅政策
23・24	福祉政策と関連施策②	講義	労働政策、災害政策
25・26	福祉サービスの供給と利用の過程	講義	福祉供給部門、福祉供給過程、福祉利用課程
27・28	福祉政策の国際比較	講義	国際比較の視点と方法、欧米の福祉政策の動向、東アジアの福祉政策の動向、所得保障からサービス保障へ
29・30	これからの社会福祉/定期試験	講義	

科目名 (英)	ソーシャルワークの基盤と専門職(社会専門) Social Work Basics and Specialization(specialized)	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	各務 勝博
		授業形態	演習		有		
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	水曜日 6限
講師紹介	社会福祉士、介護支援専門員、キャリアコンサルタントの資格を取得。障害者福祉・高齢者福祉分野において、施設・在宅・就労移行の支援員、相談員、管理者として30年以上の豊富な実務経験を有する。同時に社会福祉法人や専門職団体での現任研修や資格取得対策講座を担当する。2013年より大学・専門学校において社会福祉士・精神保健福祉士の他、歯科衛生士や言語聴覚士などの資格取得科目、演習・実習科目を担当。国家試験に合格することを前提としながらも、「分かりやすい授業」「身につく授業」を心がけている。						
目的	ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士における役割と機能について、また、ミクロ・メゾ・マクロレベルの様々な課題に対応するソーシャルワーク実践の内容について、テキストとレジュメ、配布資料の活用、事例分析を通して国家試験の水準を基本として学ぶ。						
科目概要	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士の専門性と役割について学び、活躍する職域の多様性を理解する。その上で、社会福祉士がミクロ・メゾ・マクロレベルの様々な課題に対する実践していく支援方法を学ぶ。						
到達目標	・社会福祉士の職域と役割について理解する。 ・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象とそれぞれのレベルにおけるソーシャルワークの展開について理解する。 ・総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義、内容について理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	ソーシャルワークの基盤と専門職(中央法規出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、テキストの該当箇所を読んでおく。事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	演習	社会生活支援・地域生活支援の専門職としてのソーシャルワーカー、ソーシャルワーク専門職と職能団体の役割
2	社会福祉士の職域と役割	演習	社会福祉士が働く職域の拡大、社会福祉士が活躍する様々な職域
3	多様な組織・機関・団体における専門職	演習	様々な職域と職場、社会福祉行政における専門職、民間の社会福祉施設・組織における専門職
4	諸外国の動向	演習	アメリカ、イギリス、北欧諸国、その他の地域の実践
5	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①	演習	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象
6	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②	演習	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開
7	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク③	演習	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの事例研究
8	中間まとめと中間テスト		
9	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点	演習	総合的かつ包括的な支援としてのジェネラリストの視点、ジェネラリストの視点に基づくソーシャルワークの特徴
10	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容	演習	多機関・多職種の連携・協働による包括的支援体制の構築、社会資源となる人や組織等との協働体制
11	ソーシャルサポートネットワーク	演習	ソーシャルサポートネットワークとは、社会関係のコンボイモデル
12	多職種連携およびチームアプローチの意義と内容①	演習	多職種連携およびチームアプローチの意義、機関・団体間の合意形成の促進とクライアントとの連携・協働
13	多職種連携およびチームアプローチの意義と内容②	演習	多職種連携およびチームアプローチの事例
14	まとめ	演習	これまでの振り返りとまとめ
15	定期試験		

科目名 (英)	障害者福祉 Support for Challenged Person	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 修
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	2			曜日/時間	金曜 6,7限
講師紹介	講師は介護老人福祉施設の生活相談員および指定特定相談支援事業所の相談支援専門員として、高齢者・ご家族への生活相談支援、地域の障害者の計画相談支援に従事し豊富な実務経験を有する。国家試験対策と並行して、福祉に関連する根本的な課題・問題群を考察する視点・思考を養うことを目指し、学生とともに考え、学ぶ授業展開を目指す。						
目的	障害者福祉に関する歴史と理念、法制度の変遷と今日的課題を理解し、障害者支援の実践基盤となる障害観の形成を行う。						
科目概要	障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程を踏まえ、障害者に対する支援とその仕組み、これを取り巻く社会環境について理解する。						
到達目標	障害者福祉の歴史、理念、法制度の変遷の大きな流れを捉え、国家試験対策として各種試験において8割以上の正答力を養う。 障害者を取り巻く歴史、理念、法制度の変遷、今日的課題の学習を通して「差別と包摂」「多様性」「意思決定」「人権」などの重要概念について考察を深め、自身の障害観の原型を形成する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	『障害者福祉』中央法規出版			事前事後 学習と その内容	各回とも授業前にテキスト該当箇所を通読しておくこと。学習すべき分野・範囲の広さに比して指定の学習時間が短く、国家試験頻出項目の通覧となりやすい。そのため多様な障害の理解や自身の障害観を深める試みを社会福祉士養成講座等にて別に取り扱う。		
参考図書	障害者総合支援法のサービス利用説明パンフレット(全社協)ほか						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	科目オリエンテーション 第1章:障害概念と特性	講義	障害の概念と三障害・難病 障害者手帳の概要
2	第2章:障害者福祉の理念	講義	障害観の変遷 障害者福祉の理念
3	第3章:障害者福祉の歴史①	講義	障害者処遇の歴史 障害者副制度と発展過程 当事者運動ほか
4	第4章:障害者の生活実態とこれを取り巻く 社会環境と課題①	講義	教科書第4章の概観を行う
5	第4章:障害者の生活実態とこれを取り巻く 社会環境と課題②	講義	令和4年生活のしづらさなどに関する調査(全国在宅障害児・者等実態調査)から障害者の 動静と状況、これを取り巻く環境を理解する
6	第3章:障害者福祉の歴史②	講義	障害者の権利に関する条約と障害者基本法
7	第5章:障害者に対する法制度①	講義	社会福祉基礎構造改革から支援費制度、障害者自立支援法まで
8	第5章:障害者に対する法制度② 中間テスト	講義	障害者総合支援法①障害者総合支援法のサービスの全体像
9	第5章:障害者に対する法制度③	講義	障害者総合支援法②各種サービスの理解
10	第5章:障害者に対する法制度④	講義	障害者総合支援法③サービス利用の流れと自治体の役割
11	第5章:障害者に対する法制度⑤	講義	その他関連法令①(身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者 福祉法など)
12	第5章:障害者に対する法制度⑥	講義	その他関連法令②(障害者差別解消法・障害者虐待防止法・障害者雇用促進法など)
13	第6章:関係機関と専門職の役割	講義	関係機関の役割 各種の専門職とその役割
14	第7章:障害者と家族等に対する支援の実際	講義	障害分野におけるソーシャルワーカーの役割 支援の実際
15	定期試験		総まとめ 定期試験

科目名 (英)	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ Practice for Soial Work(specialized)	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 修
		授業形態	演習		有		
		時間数	75	授業回数	38	開講区分	後期
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	5			曜日/時間	金曜日 6,7限
講師紹介	講師は介護老人福祉施設の生活相談員および指定特定相談支援事業所の相談支援専門員として、高齢者・ご家族への生活相談支援、地域の障害者の計画相談支援に従事し豊富な実務経験を有する。国家試験対策と並行して、福祉に関連する根本的な課題・問題群を考察する視点・思考を養うことを目指し、学生とともに考え、学ぶ授業展開を目指す。						
目的	ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、支援対象を中心とした分野横断的な包括的支援の実践力を養う。						
科目概要	ソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。支援を必要とする人を中心とした分野横断的な包括的支援の実践と、地域特性や課題を把握し解決するためのアセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。						
到達目標	ソーシャルワーク専門職に必要とされる知識と技術、価値観の統合に基づき、支援対象のニーズに適った専門的な実践を試みることができる。						
評価方法	□筆記試験 □口頭試験 □実技試験 ■その他()						
教科書	『ソーシャルワーク演習(社会専門)』中央法規出版			事前事後 学習と その内容	中間テストおよび定期テストは、記述試験または実技試験にて行う。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	①科目オリエンテーション ②半期の授業計画	演習	①演習の意義と目的・授業計画と進め方 ②能動的な演習授業のための学習計画
3・4	ソーシャルワークの展開過程Ⅰ	演習	事例の明確化を行う インテークの実践
5・6	ソーシャルワークの展開過程Ⅱ	演習	アセスメントの実践
7・8	ソーシャルワークの展開過程Ⅲ	演習	プランニングの実践
9・10	ソーシャルワークの展開過程Ⅳ	演習	モニタリング・支援終結の実践
11・12	事例検討Ⅰ	演習	児童福祉の課題 児童分野に関する支援の実践
13・14	事例検討Ⅱ	演習	障害者福祉の課題 障害分野に関する支援の実践
15・16	⑮中間テスト ⑯半期の授業計画	演習	⑮中間テストと振り返り ⑯能動的な演習授業のための学習計画
17・18	事例検討Ⅲ	演習	高齢者福祉の課題 高齢分野に関する支援の実践
19・20	事例検討Ⅳ	演習	精神保健分野・精神医療分野の課題 精神分野に関する支援の実践
21・22	事例検討Ⅴ	演習	地域福祉の課題 地域福祉の実践
23・24	権利擁護	演習	権利擁護の意義 権利擁護の実践
25・26	災害福祉	演習	災害福祉の必要性 災害福祉におけるソーシャルワーカーの役割と実践
27・28	終末期のケア	演習	終末期ケアにおけるソーシャルワーカーの役割 終末期ケアにおける倫理や価値
29・30	⑳定期テスト	演習	定期テストと振り返り ソーシャルワーク実習に向けての確認等
31～38	(実習後)実習の振り返りと評価	演習	実習を通じて体験した事例について事例検討や事例研究を行い、事象の意義や支援方法を再検討する。次年度の実習に向け自身の課題を明確にする。

科目名 (英)	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ Social Work Practical Guidance	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 修
		授業形態	演習		有		
		時間数	45	授業回数	23	開講区分	後期
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	3			曜日/時間	6,7限(実習前後集中)
講師紹介	講師は介護老人福祉施設の生活相談員および指定特定相談支援事業所の相談支援専門員として、高齢者・ご家族への生活相談支援、地域の障害者の計画相談支援に従事し豊富な実務経験を有する。実践力の習得と並行して、福祉に関連する根本的な課題・問題群を考察する視点・思考を養うことを目指し、学生とともに考え、学ぶ授業展開を目指す。						
目的	ソーシャルワーク実習の意義・目的を明確にすることができる。 自身の実習上の課題を明確にすることができる。 実習目標をもとに、より学びの多い能動的な実習のための実習計画を作成することができる。						
科目概要	社会福祉現場の現状と課題を把握し支援を展開するため知識と技術、実習記録の作成方法、巡回指導の意義、その他実習全般に係る基本事項を理解する。						
到達目標	ソーシャルワーク実習Ⅰでの実践と併せ、知識と技術の活用方法を学び、現時点でのソーシャルワーク実践者としての自己の課題を明確にすることができる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 □実技試験 ■その他()						
教科書	川村隆彦編『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規出版			事前事後 学習と その内容	学内での実習指導に合わせて学生、指導教員、実習先(実習指導者)の三者協議のもとに実習計画等の作成を行う		
参考図書	必要に応じ各種データ等を配布する						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	実習の意義と目的	演習	ソーシャルワーク実習の意義と目的
3・4	実習規則や評価の確認	演習	実習に関する法令および学校教育上の規則やとルールについて理解する
5・6	自己紹介書の作成	演習	実習先機関への自己紹介書を作成する
7・8	実習先施設・機関の理解①	演習	実習先機関の目的・機能を理解する 実習先機関と根拠法・関連法令と提供サービスの関係等を理解する
9・10	実習先施設・機関の理解②	演習	実習先機関の利用者の特徴を知る 実習先機関のサービス・取り組みの特徴を知る
11・12	実習目標・実習計画の作成①	演習	実習先機関に関する理解をもとに自身の実習目標を設定する
13・14	実習目標・実習計画の作成②	演習	実習目標をもとに実習計画を作成する
15・16	オリエンテーション内容の確認	演習	実習期間・施設でのオリエンテーション内容を確認し、実習計画の再考・修正する
17・18	実習記録等作成演習と実習計画の再確認①	演習	実習記録の取り扱い・保管などの確認 実習記録の書き方を理解する
19・20	実習記録等作成演習と実習計画の再確認②	演習	実践現場での一場面などを想定し、実習記録作成の演習を行う
21・22・23	(実習後) 実習の振り返りと評価 実習報告	演習	ソーシャルワーク実習Ⅰを終えての振り返りと評価～実習報告

科目名 (英)	ソーシャルワーク実習 Social Work Training	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 修
		授業形態	実習		有		
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	時間数	60	授業回数		開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月・火・水・木・金
講師紹介	講師は介護老人福祉施設の生活相談員および指定特定相談支援事業所の相談支援専門員として、高齢者・ご家族への生活相談支援、地域の障害者の計画相談支援に従事し豊富な実務経験を有する。実践力の習得と並行して、福祉に関連する根本的な課題・問題群を考察する視点・思考を養うことを目指し、学生とともに考え、学ぶ授業展開を目指す。						
目的	福祉現場の実状と課題を理解するとともに、支援者に必要とされる自己覚知と課題発見を行う。						
科目概要	社会福祉実践の現場にて、ソーシャルワークの機能と役割、その実践方法を学ぶ。						
到達目標	講義・演習で学んだ知識・技術を実践し、ソーシャルワークスキルを体験的に習得するとともに、支援者に不可欠な自己覚知と他者理解について、利用者・患者等との関わりのなかで省察を深めることができる。						
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 □実技試験 ■その他（ ）						
教科書				事前事後 学習と その内容	実習前教育において実習の準備を行う。 実習後教育において実習の振り返りを行う。		
参考図書	『総合的な実践力を獲得するソーシャルワーク実習』ほか						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ソーシャルワーク実習	実習	実習施設・機関の実状と課題/利用者・職員・関係者との関わり方/自己理解・他者理解/既習内容の実践と反省的考察の繰り返し/その他ソーシャルワークに関連する知識と技術
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

科目名 (英)	キャリアコンサルタント講座 Career Consultant Training Course	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	碓 ともみ
		授業形態	演習		有		
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	時間数	155	授業回数	78	開講区分	後期
		単位	10			曜日/時間	火曜・木曜6,7限
講師紹介	大手航空会社に23年間勤務した後、複数の大学で非常勤講師を務め、若年者キャリア形成教育、ビジネス実務教育、ホスピタリティマネジメントなどにも研究をすすめる。キャリアコンサルタントとしての相談業務や執筆活動にも注力し豊富な実務経験を有する。日本キャリアデザイン学会所属。また、更新技能講習(若年者支援)も担当している。						
目的	①講義・演習・オンデマンドの学習を通しキャリアコンサルタントとしての姿勢や考え方、実践力を身につける。 ②キャリアコンサルタント認定講習を修了し、国家試験に合格するレベルの知識を身につける。						
科目概要	・講義・演習・オンデマンド形式で行う。 ・実践力の養成を重視し、グループワークやロールプレイングを中心に展開する。						
到達目標	・キャリアコンサルタントとしての基本的知識を習得し、状況に応じた相談を展開できるようになる。 ・定期試験にて、授業のねらいに関連する事項について理解した内容を回答することができる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 □実技試験 ■その他()						
教科書	キャリアコンサルタント養成講座オリジナルテキスト			事前事後 学習と その内容	テキスト・補助教材を利用した自宅学習		
参考図書	キャリアコンサルタント実技試験(論述・面接)テキスト&問題集						
特記事項	LEC東京リーガルマインドキャリアコンサルタント養成講座併修						

科目名 (英)	プロ養成講座 I Training Course for Professional	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	海老塚 智
		授業形態	演習		無		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	1			曜日/時間	木曜日 6,7限
講師紹介	教育業界(医療・福祉・スポーツ)での授業、学生・就職指導、就職支援10年、予備校業界での進路・学習指導等4年の実務経験を有する教員が社会人スキルの修得へ講義・演習を行う。						
目的	社会福祉士、キャリアコンサルタントとして多様な人と接するための社会人スキルを身に着ける						
科目概要	キャリアコンサルタント国家試験実技試験を意識し傾聴や理論の復習等を行う						
到達目標	相談援助職としての基本姿勢を再度確認し、キャリアコンサルタント試験への準備を行う。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 □実技試験 ■その他()						
教科書	最速合格 キャリアコンサルタント実技試験			事前事後 学習と その内容	逐語録を聞き返すなど行う		
参考図書	補助資料あり						
特記事項	カウンセリング内容録音し、逐語録として保管することをおススメ						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	自己紹介と自己分析	演習	・カウンセリングの基本姿勢を確認し、CL役CCT役を通して自己紹介と自己分析を行う。
2	実力テスト	演習	・キャリアコンサルタント筆記＋論述試験の模擬試験を実施。
3	カウンセリング演習①	演習	・カウンセリングを想定した演習を行う。
4	実力テスト(解答解説)	演習	・第2回で実施した実力テストの解答解説を行う。
5	事例検討①	演習	・カウンセリングの事例に基づき分析を行う。
6	カウンセリング演習②	演習	・カウンセリングを想定した演習を行う。
7	カウンセリング演習③ 事例検討②	演習	・カウンセリングを想定した演習と事例の分析を行う。
8	定期試験		・キャリアコンサルタント筆記試験＋面接試験

科目名 (英)	診療報酬請求 Medical Fee Billing	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	水野 早苗
		授業形態	演習		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	社会福祉士・医療ソーシャルワーカー学科	単位	1			曜日/時間	月曜 6,7限
講師紹介	総合病院、大学病院、クリニック、介護老人保健施設、歯科クリニック、調剤薬局での豊富な実務経験を有する。医科・歯科・調剤・介護の保険請求事務及び医療秘書(医師事務作業補助者)の講義を約30年間行っており、本学では歯科診療報酬非常勤講師を務めた。医療現場を経て多職種連携の重要性を踏まえ、患者を取り巻く環境下で、それぞれの医療スタッフがその専門性を活かせるよう、MSWIは潤滑油的な存在として「患者のベストな状況を考え行動する力」を身につける必要があると考える。						
目的	医療ソーシャルワーカー業務の要となる医療保健サービスについて、患者又は利用者の安心・安全な日常生活を支援するために、医療費及び介護費のしくみ及び各診療報酬についての基礎を習得する。						
科目概要	医療ソーシャルワーカーとしての業務を理解するための医療費及び介護費用の内容理解と知識の活用方法取得						
到達目標	保健・医療・福祉に関わることの意義を見つけ、専門職として必要なことは何か、何を学び、どう活かすか、また対象とする人のニーズの把握の仕方、さらに医療ソーシャルワーカー業務の考え方や行動の仕方を理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	オリジナルレジュメ			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後に配布する確認レポートを作成し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影および録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	診療報酬とは	演習	国民医療費、医療提供施設とは 診療報酬の基本的捉え方
2	医療保険制度	演習	医療保険の種類、対象者 医療給付について
3	診療報酬請求①	演習	病名からの診療報酬((外来)のしくみを考えよう
4	診療報酬請求②	演習	病名からの診療報酬((入院)のしくみを考えよう
5	診療報酬請求③	演習	病名からの診療報酬(在宅・公費)のしくみを考えよう
6	在宅医療とは	演習	地域包括ケアシステムを踏まえて、在宅医療のしくみを考えよう
7	介護報酬とは	演習	地域包括ケアシステムを踏まえて、介護報酬のしくみを考えよう
8	定期試験		筆記試験(講義内容全範囲から出題) ※電卓必須